

研究課題	#学びを止めないプロジェクト「自宅 de 地域探究」自立した探究学習の実践
副題	～ICT を活用した家庭学習での地域探究の支援～
キーワード	ICT 探究 オンライン指導
学校/団体名	私立 RESAS 活用教育推進委員会
所在地	〒895-0041 鹿児島県薩摩川内市隈之城町 2205
ホームページ	https://peraichi.com/landing_pages/view/resas/

1. 研究の背景

令和元年度、内閣府地方創生推進室ビッグデータチームより委嘱を受けた 8 名の教員が、RESAS（地域経済分析システム）を活用した中学校・高等学校副教材（授業モデル）を作成した。RESAS（地域経済分析システム）とは、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局および経済産業省が、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し、可視化するシステムとして提供しているデータの可視化ツールである。RESAS には地域の人口や産業構造、観光、財政などに関する幅広いデータが入っており、クリックだけでデータを選び、地図やグラフの形で見ることができる。元々は中小企業政策や地方創生のために作られたシステムだが、直観的に操作できるため、データ分析の入門ツールとして教育現場でも活用しやすいものとなっている。この RESAS が活用できる副教材として、「総合的な探究の時間」（4 コース）に加え、「地理歴史（地理総合）」、「国語（現代の国語）」、「情報（情報 I）」、「商業（観光ビジネス）」の計 8 コースが「RESAS for Teachers」というウェブサイトに掲載された。また、この副教材は、投影用資料や生徒用のワークシートを PowerPoint のデータでダウンロードできるため、自由にカスタマイズすることが可能になっている。

この副教材が完成した同時期に、令和 2 年 2 月、新型コロナウイルス感染症の影響で政府より「新型コロナウイルス感染症対策のための」学校の臨時休校の要請が出され、一斉授業が停止になった。その後、学校においては、ICT を活用してリモート授業を実施や自宅学習課題で対応する状況になった。本団体は、この臨時休校中に、生徒の学習をサポートできないか検討し、私たちが作成した「RESAS for Teachers」のウェブサイトに掲載された「総合的な探究の時間」の副教材である「地方のチェンジ・メイカー育成プログラム」を使って、生徒が臨時休校期間中に自主的に行う探究学習を支援する取り組みを始めた。これが、#学びを止めないプロジェクト「自宅 de 地域探究」である。令和 2 年度は、5 月に取り組みをスタートし、学習サポート動画の提供、大学生が中・高校生が作成した企画書をブラッシュアップする「大学生地域探究コーチによる地方のチェンジメイカー育成講座」、中・高校生の提案を実現に繋げる取り組み、「地域応援アイデアコネクト」を開催するなど、生徒の探究学習を支援する取り組みを 1 年かけて行った。臨時休校の期間が長かったこともあり、この取り組みに共感し、休校中の課題として採用していただいた先生方がいらっしやったこともあり、「地域応援アイデアコネクト」には、83 件の応募があった。今年度は、より自主的に探究学習に取り組む生徒を増やしたい、さらにはオンラインによるサポート体制をよりよいものにするために、パナソニック教育財団の研究助成に

募することとした。

2. 研究の目的

新しい学習指導要領の導入が始まり、令和4年度は高校でも導入される。その中で、「探究」の役割は大きくなる。この新学習指導要領では、育成をめざす資質・能力の三つの柱である「知識及び技能等」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」を育成することが求められている。さらに、各教科等においても探究のプロセスをモデルとして学習のプロセスが示されているように、探究することによって「知識・技能」が「活用・発揮」され、期待する「資質・能力」が育成されると言われている。つまり、これからの社会で求められる資質・能力の育成には「探究すること」が欠かせないと言える。しかし、学校現場において、この「探究」をどのように進めていけばよいか、悩まれている学校や先生方も少なくはない。地域によって探究学習への取り組みはまちまちであり、さらには、探究学習を進めるうえでの先生方の負担が増すことも想像できる。このことから本研究は、生徒が自立した探究学習を行うマインドを育成し、オンラインを通じて生徒の探究学習を伴走(サポート)し、効果的な学習が実現することを目的とする。本来、生徒が目指すべき姿は、生徒が主体的に「探究」を進めることであり、先生方の役割は、ファシリテーター、つまり「伴走すること」にある。本研究が、この目的を実践するポイントとして2つを示したい。1つ目は、『オンライン、ICTを活用したサポート体制の構築』である。探究学習において、生成の役割は「教える」ことよりも「導く」、つまり伴走することにある。コロナ禍によるオンライン授業やICTを活用することが急速に進んだことで、これを活用して、生徒の探究学習を導くことができるのではないかと考えた。2つ目は、『探究学習をすることに留まらず、いかに社会と繋がるか』ということである。生徒が自立した探究学習を進める上で必要なマインドは、まず、「自分事」の探究になっているかという点にある。その上で、実社会で課題を解決する身近な存在が「自分の住んでいる街」であり、「地域探究」を進めることが効果的と考えた。さらに、新たなアイデアを提案するだけに留まらず、実現させることを目指すことで、「探究」の本来の目的を達成でき、この実現こそが、生徒が自立した探究学習を行うマインドを育成することに繋がる要因を明らかにする実践を示していきたい。

3. 研究の経過

4月	自宅de地域探究2021 検討会議
5月	自宅de地域探究2021 個人登録の開始
7月	探究サポーターズの結成に向けて検討
9月	探究サポーターズの結成に向けて検討会議
	生徒のアイデアの実現化への取り組み (SATSUMA FLAG様との連携)
10月	大学生地域探究コーチによる地方のチェンジメイカー育成講座募集開始
11月	地域応援アイデアコネクットの募集開始
1月	生徒のアイデアを実現 (SATSUMA FLAG様との連携)
2月	高校生グループへの定期的な探究学習オンラインサポート

年度当初の予定では、自主的に探究学習に取り組む生徒を増やすための実践を行っていくことを考えていたが、昨年の臨時休校による授業の遅れを取り戻すために、今年度の学校現場においては、授業の確保が重視され、長期休暇が短くなるなど、生徒の自主的に探究学習に取り組む時間が確保しにくいとの声が多く、参加者が増えない状況であった。そのため、次年度に向けたサポートの仕組みづくりを進めることを主として実践した。



#学びを止めないプロジェクト「自宅 de 地域探究」のホームページで情報を公開。各種サポートの紹介を行っている。このサイト内に、学習サポート動画を提供し、動画を見ながら探究学習を進めることでサポートできるようにしている。

https://peraiichi.com/landing_pages/view/resas/

第1弾 学習サポート動画（導入編）



学習サポート動画（セクション3）



学習サポート動画（セクション2）



学習サポート動画（セクション4）



4. 代表的な実践

研究の目的の「生徒が自立した探究学習を行うマインドを育成し、オンラインを通じて生徒の探究学習を伴走（サポート）し、効果的な学習が実現することを実現させる」ことに対する実践として『オンライン、ICT を活用したサポート体制の構築』と『探究学習をすることに留まらず、いかに社会と繋がるか』について、代表例（1）、（2）①、②を挙げる。

（1）『オンライン、ICT を活用したサポート体制の構築』について

大学生による学生団体「探究サポーターズ」の結成に向けて

昨年度、「自宅 de 地域探究」の取り組みの中で、大学生が中高生の探究学習でのアウトプットをアドバイスする「大学生地域探究コーチによる地方のチェンジメイカー育成講座」を実施した。応募された中高生の地方創生のためのアイデアの企画書の提案内容、資料のデザイン等に対して、良いところを褒めたり、疑問点とともによりよい提案になるためのアドバイスをまとめたアドバイスシート（図1）を生徒へ返信し、中高生の探究学習をサポートした。また、Zoom を活用してオンラインイベント「地方のチェンジメイカー公開会議」を開催し、オンライン上で、中高生の企画書に対してアドバイスをする機会や大学生の探究学習での体験談や探究学習を行う上でのポイントを紹介した。この取り組みに参加した高校生からは、「先生よりも大学生だと親近感があり、相談しやすかった」「自分たちの悩みを共感してもらえた」などの感想を受けることができた。このことから大学生が探究学習をサポートする取り組みが自立した探究学習を実現するための手段としての可能性を感じたことから、大学生が生徒の探究学習をサポートする体制作りを進めることとした。また、今年度のパナソニック教育財団研究助成校の中に、高校の「総合的な探究の時間」の取り組みで県内外の大学生アドバイザーから GoogleMeet を活用し、意見交換をしている事例をお聞きし、大学生との連携が、学校現場において、探究学習の質も高めたり、また先生方の負担を軽減させたりするための効果として期待できるのではないかと考えた。このような経緯で、昨年度、「自宅 de 地域探究」に取り組んだ経験のある大学生が中心となって「探究サポーターズ」を結成し、メンバーを募集、5名によるコアメンバーを中心に次年度からの活動内容について、オンライン、そして対面式で会議を行った（図2）。そして、今年度は、1つの高校の社会科クラブの探究学習のサポートを実施した。このことについては、(2)②の実践事例で紹介する。



図1 「大学生地域探究コーチによる地方のチェンジメイカー育成講座」アドバイスシート



図2 探究サポーターズの活動内容について、大学生との検討会議

(2) 『探究学習をすることに留まらず、いかに社会と繋がるか』

～生徒の提案を実現に繋げる活動について～

昨年度、本団体では、「自宅 de 地域探究」の取り組みの一つとして「地域応援アイデアコンネクト」を開催した。この取り組みは、アイデアコンテストとは違い、表彰や賞品を目的とするものではなく、社会とリアルに繋ぎ、中高生が地域を分析し、考えたアイデアを実現に繋げることを目標にしたものとして始めた。83件の応募の中から4点の優秀作品を選出し、ホームページに掲載し、自治体や企業に見てもらえる仕組みを構築した。関係者に興味関心をもっていただくことはできたが、実現には至らなかった。そこで今年度は、鹿児島県の一般社団法人 SATSUMA FLAG に協力をお願いし、生徒のアイデアの実現化に向けて検討を始めた。

①一般社団法人 SATSUMA FLAG の協力による生徒のアイデアの実現化へ

鹿児島県を拠点とする一般社団法人 SATSUMA FLAG と連携し、9月、中高生が考えるアイデアの実現に向けて検討を始めた。今年度、同団体が環境省における、令和2年度国立公園・温泉地等での滞在型ツアー・ワーケーション推進事業費に係る事業の実施団体に採択されたこともあり、鹿児島県薩摩川内市甕島でのアドベンチャーツーリズムのモデルツアーの策定に関われることとなり、地元中学生が考えた、甕島での観光モデル「ちやりんこしきしま」の実現化に向けて検討していただけることとなった。この中学生が提案した「ちやりんこしきしま」の内容は、車の交通量が少ないこと、道幅が狭く、車での移動がしにくいことを逆手に取り「安全である」という魅力の一つに置き換え、安全にサイクリングをしながら観光できるツアーモデルである。この提案を同団体が実現化に向けて、ブラッシュアップし、フェリー・高速船ターミナル周辺の新たなモデルツアーとして、ホームページ上に公表していただくことになり、実現することとなった。

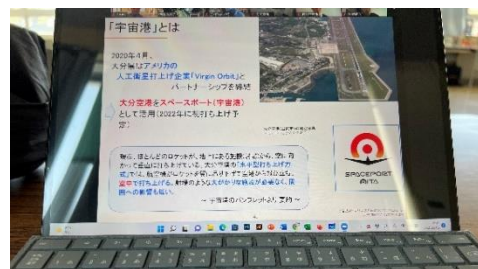


甕島多世代交流シェアプレイスプログラム ホームページに掲載 <https://adventure-satsuma.com/>

②高校生への探究学習オンラインサポートで実現に向けて

～A 高校社会科クラブ有志による地域の政策アイデアの実現へのサポート～

2月、高校の社会科クラブから生徒が立案した資料をブラッシュアップして企業にプレゼンテーションしたいので、実現に向けてサポートしてほしいとの依頼があり、オンライン（Zoom）による探究学習のサポートを実施した。サポートの方法は、Zoom を活用して、部活動の活動時間、毎週1時間半から2時間程度でのオンライン会議でのブラッシュアップと会議までの期間は、Google スライドを生徒と共有して、そのスライド上でアドバイスを加える取り組みを実践した。4回の会議とスライド上でのアドバイスは、「探究サポーターズ」のメンバー2名と本団体メンバー1名、A 高校の地域の有識者の方にも協力をいただき、「宇宙港」を核とした地域活性化計画の実現に向けて取り組んだ。高校生のアイデアは、地域活性化の手段として高校生を対象としたクイズ大会の実施する提案を考え、これを実現するために地元商店街に協力いただくためのプレゼンを計画し、企画書の作成を進め



Zoom を活用したオンライン会議でのアドバイス

た。実現に向けた戦略が明確になるにつれ、生徒たちの意欲がさらに高まり、より真剣に議論し、深いデータの分析によって根拠を立て、具体的な企画内容に仕上げていくことができた。3月末に実施を予定している商店街へのプレゼンに向けて準備を進めている。

5. 研究の成果

コロナ禍で予想以上に、自主的に取り組む生徒を増やすことはできなかったが、その反面、今後の探究学習をサポートする体制作りを前進することができた。今年度、結成した「探究サポーター」の大学生グループと共同し、生徒の探究学習をサポートすることで、参加した生徒が自立的に探究学習を進められやすくなることは、代表的な実践(2)②高校生への探究学習オンラインサポートの例からも実証することができたと考える。今後は、「探究サポーター」のメンバーを充実させ、探究学習のサポートするスキルを上げるための研修会を開催するなどにより質の高いサポート体制を気づくことが期待できる。そして、この活動によって、生徒が自立できるようになるだけでなく、先生方の探究指導の負担を軽減させることにも寄与できる取り組みになると期待できる。そのためにも学校や団体との連携を含め、充実させていくことが必要である。また、探究学習の成果が、生徒と社会とつなげること、そして実現することであれば、学習のモチベーションをアップさせ、自立するマインドの育成につながることもわかった。

6. 今後の課題・展望

次年度は、学校や先生方、また自治体、企業と連携し、「自宅 de 地域探究」への参加者を増やしていきたい。そのために、大学生による「探究サポーター」の組織、活動内容を充実させるために協力し、連携を深めていきたい。それと同時に、生徒と一緒に伴走してもらえる企業、自治体を広く募集し、生徒と社会を繋げる存在として、生徒のアイデアの実現する事例を増やしていきたい。その結果、学校で「やらされる」探究ではなく、「自分事」の探究になるよう支援し、自主的に探究するマインドを育てていきたい。

7. おわりに

本研究の助成により、昨年度始めた#学びを止めないプロジェクト「自宅 de 地域探究」を継続的な活動に繋がる有意義なものとなった。次年度は、長期的に、中高生のグループ、個人の探究学習をこの仕組みで支援していきたい。そして、探究学習に自主的に取り組む生徒を増やし、これからの社会で活躍できる人材の育成にも寄与していきたい。最後にこの貴重な研究の機会をいただいたパナソニック教育財団と、1年間にわたり丁寧なアドバイスをいただいた明星大学の今野貴之准教授に心より感謝を申し上げたい。

8. 参考文献

- ・パナソニック教育財団実践研究助成研究報告書「静岡県立掛川西高等学校」
- ・パナソニック教育財団実践研究助成研究報告書「大阪教育大学附属高校池田校舎」
- ・「探究」を探究する 本気で取り組む高校の探究活動 田村学、廣瀬志保